

教職の魅力創造プラットフォーム会議に参加して

白石 頼人（山形県立山形西高等学校教諭）

1. 教職の魅力創造プラットフォーム会議について

山形県の教員採用試験の倍率低下は高校の教員の中で度々話題になり、危機感がある教員も多いが、だからといって倍率上昇のために行動を起こす教員はいない。進路指導で、生徒に教員になるという選択肢を与えることはあっても、無理に勧誘することはしない。我々は同僚を増やすために仕事をしているわけではないのだから当然である。そのようなジレンマがあるからこそ、本会議があることはとてもありがたい。高校教諭という自分の肩書を超えて、様々な職種の方と教職の未来について語ることのできる場は貴重である。特に、大学の職員の方とお話ができるのが嬉しい。山形の教育の中核の一端を担う大学が、どのような目的で企画を行っているかを知る事で、自己研鑽に繋がったり、職場へ還元したりすることができるからである。高校ではなかなか実施することができない企画も多いので、非常に勉強になる。

もし可能であれば、企画の立案の段階から携わりたいと考える。企画の実施報告を受け、それに意見することはできるが、あくまでそれは実施後のことに対する意見であり、教職の魅力創造のための根本に対し意見することはできない。せつかく様々な職種の委員から構成されている会議なので、企画立案の際に様々な角度から企画を揉むことができれば、さらに有意義な活動ができたと考える。

2. 教職の魅力創造のための各プロジェクトについて

(1) 小学校教員体験セミナー

高校には様々な企画が持ち込まれ、どのように生徒に下ろすかが問題視されている。山形県看護協会が主催している看護体験セミナーのように毎年必ず人が集まる企画もあれば、そうでないものもある。本セミナーも、教員を少しでも志望しているものは参加するというレベルまで定着させたいものである。そのためには、小学校と常に連携できる体制をとっておく必要があると考える。本校生徒もお世話になり、有意義な活動であったため、ぜひ継続していただきたい。

(2) 聞き書きプロジェクト

教員を志望している学生にとって、恩師との対話で聞き書きをすることは、自己の夢を再認識することができるため有意義な活動であると思う。しかし、この活動だけでは新たな教員志望の学生を増やすことはできない。聞き書きプロジェクトで提出されたレポートを教員志望でない学生の目にも触れるようにしてはいかかがか。特に、将来の夢がまだ固まっていない中学生や高校生に向けて発信するのが効果的だと考える。また、実現はできないかもしれないが、恩師の話を大勢で聞き書きするという手法もあるかもしれない。